普及活動情勢報告（令和３年９月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

ミニトマト調査　～収量・品質の向上を目指して～

誘引方法の効果を調査する普及指導員

普及所は大豊町のミニトマト実証ほ２か所で５月から毎週、令和２年度から導入したＮターン誘引での生育・収量・品質を調査しています。

着果負担や夏期の高温から草勢が著しく低下していることから、普及所は、緩効性肥料や遮光資材を導入し、それらの効果を実証ほで確認しています。調査農家からは「昨年と比較して品質が良くなっている、数値で見ることで効果が分かりやすい」という意見がありました。

今後、普及所は調査結果をミニトマト部会で報告し、技術の向上に繋がるように取り組んでいきます。

生計が立てられる農業に向けて　～嶺北地域農業振興計画 経営モデルの検討～

関係機関はオンラインでリモート参加しました

８月 25 日、嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会の担い手に関するチーム会が Web で開催され、管内４町村の担当者、JA、農業共済組合、普及所から 12 名が参加し、品目ごとの経営モデルを検討しました。

農業部会では、令和４年度からの３か年計画となる「嶺北地域農業振興計画」の策定に向け、育成・確保する担い手および目指す経営を示すモデルを検討しています。

出席者は管内の代表的な経営規模の実態をもとに、ハウスを新設した場合の経費などについて検討しました。

今後、農業部会では、就農希望者に提示できる経営モデルを作成し、支援に役立てていきます。

「土佐酒造酒米生産者組合」現地検討会を開催～‘吟の夢’の収穫時期を検討～

「吟の夢」の生育を確認する普及指導員

９月３日、本山町および土佐町で特別栽培‘吟の夢’の現地検討会が開催され、生産者 12 名、土佐酒造２名、普及所１名が参加しました。

普及所からは、カメムシおよびウンカへの注意喚起を行うとともに、収穫・乾燥作業におけるポイントを説明しました。ほ場は計６カ所を巡回し、籾の黄熟度を確認しながら収穫時期を協議しました。

今年度は、出穂後の８月に雨天が続き、病害が発生しやすい条件で生育もやや遅延気味ですが、生産者は「少しでも良い米を出荷したい」と今後の管理について熱心に情報交換していました。

普及所はこれからも、良質な酒米生産に向けて支援していきます。

最後までとりきろう！　～カラーピーマン部会現地検討会～

熱心に意見交換する生産者

９月 15 日、JA 高知県れいほく園芸部カラーピーマン部会は現地検討会を開催し、部会員 10 名が参加しました。

普及所からは、今後の栽培管理と栽培終了時の病害対策について説明し、特に秋期～冬期の保温の重要性について周知しました。

JA からは、今作の販売状況や腐敗果の発生状況について説明がありました。

生産者からは、「今年は天候不順が続いて厳しい状況が続いている。保温を意識し後半の収量を伸ばしていきたい」との声が聞かれました。

今後も普及所は、JA と連携してカラーピーマンの収量・品質の向上に取り組みます。